

専門家によるモニタリングコメント・意見【感染状況】

モニタリング項目	グラフ	9月30日 第103回モニタリング会議のコメント
		<p>このモニタリングコメントでは、過去の流行を表現するために、便宜的に東京都における第1波、第2波、第3波、第4波、第5波、第6波及び第7波の用語を以下のとおり用いる。</p> <p>第1波：令和2年4月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第2波：令和2年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第3波：令和3年1月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第4波：令和3年5月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第5波：令和3年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第6波：令和4年2月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第7波：令和4年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波</p>
		<p>世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスの変異株の呼称について、差別を助長する懸念から、最初に検出された国名の使用を避け、ギリシャ語のアルファベットを使用し、イギリスで最初に検出された変異株については「B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株等）」、インドで最初に検出された変異株については「B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）」、南アフリカで最初に報告された変異株については「B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）」という呼称を用いると発表した。国も、同様の対応を示している。</p> <p>このモニタリングコメントでは、以下、B.1.1.529 系統のオミクロン株等については「オミクロン株」とする。また、その下位系統として、BA.1 系統、BA.2 系統、BA.2.12.1 系統、BA.2.75 系統、BA.3 系統、BA.4 系統及び BA.5 系統が位置付けられている。</p>
① 新規陽性者数		<p>新型コロナウイルス感染症陽性患者の全数届出の見直しにより、令和4年9月26日の診断分からは、医療機関及び東京都陽性者登録センターから報告のあった年代別の新規陽性者数の合計を、新規陽性者数として公表している。</p> <p>なお、9月25日以前は、新規陽性者数には、同居家族などの感染者の濃厚接触者が有症状となった場合、医師の判断により検査を行わずに、臨床症状で陽性と診断された患者数が含まれ、9月26日以降は、同様の患者のうち、陽性となった保護者の同居する子（小児）のみが含まれている（今週は1,078人）。</p> <p>新規陽性者数には、9月26日以前は、都外居住者が自己採取し郵送した検体について、都内医療機関で検査を行</p>

モニタリング項目	グラフ	9月30日 第103回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数	①-1	<p>った結果、陽性者として、都内保健所へ発生届が提出された例、また、9月27日以降は、空港・海港検疫にて陽性が確認された例が含まれている。これらの陽性者は、東京都の発生者ではないため、新規陽性者数から除いてモニタリングしている（今週9月20日から9月26日まで（以下「今週」という。）の都外検体は970人）。</p> <p>(1) 新規陽性者数の7日間平均は、前回9月21日時点（以下「前回」という。）の約6,800人/日から、9月28日時点で約6,135人/日となった。</p> <p>(2) 新規陽性者数の増加比が100%を超えることは感染拡大の指標となる。今回の増加比は約90%となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新規陽性者数の7日間平均は、9月28日時点で約6,135人/日となり、増加比も約90%と継続して100%を下回っている。今週の新規陽性者数は、連休中の休診に伴う検査数の減少等の影響を受けた数値となっており、その評価には注意が必要である。今後、新規陽性者数が十分に下がりきらないまま増加に転じることに、引き続き警戒が必要である。</p> <p>イ) 発熱や咳、咽頭痛等の症状があるなど、体調不良時には、まず、外出、人との接触、登園・登校・出勤を控え、症状が軽い場合は、余裕をもって、かかりつけ医、発熱相談センター、#7119又は診療・検査医療機関に電話相談し、特に、症状が重い場合や、急変時には速やかに医療機関を受診する必要がある。</p> <p>ウ) 療養期間中の外出については、有症状の場合、症状軽快から24時間経過後までは自粛が求められていることから、食料品や市販薬等の生活必需品など最低限の準備をしておくことを、都民に呼びかける必要がある。</p> <p>エ) 東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイトによると、9月27日時点で、東京都の3回目ワクチン接種率は、全人口では63.9%、12歳以上では70.3%、65歳以上では89.5%となった。また、65歳以上の4回目ワクチン接種率は、前回の74.0%から74.9%となった。</p> <p>オ) 国は、2回目までのワクチン接種を終えた12歳以上の全ての人を対象として、オミクロン株に対応したワクチンの接種を実施することとした。都内では、一部の区市町村から順次開始しており、都の大規模接種会場でも実施している。また、国は、小児のワクチン接種について、5～11歳の小児を努力義務の対象とし、3回目接種を可能とした。</p> <p>カ) 職場や教室、店舗等、人の集まる屋内では、エアコンの使用中でも定期的な換気を励行し、3密（密閉・密集・密接）の回避、人と人との距離の確保、不織布マスクを場面に応じて適切に着用すること、手洗いなどの</p>

モニタリング項目	グラフ	9月30日 第103回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		手指衛生、状況に応じた環境の清拭・消毒等、基本的な感染防止対策を徹底することにより、新規陽性者数をできる限り抑制していく必要がある。
	①-2	<p>今週の報告では、10歳未満 12.2%、10代 13.8%、20代 15.6%、30代 17.3%、40代 17.4%、50代 12.3%、60代 5.0%、70代 3.5%、80代 2.1%、90歳以上 0.8%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新規陽性者数に占める割合は、40代が 17.4%と全年代の中で最も高く、次いで 30代が 17.3%となった。働きざかりの 30代または 40代が 4週間連続して最も高い割合を示しており、今後の動向を注視する必要がある。</p> <p>イ) 若年層及び高齢者層を含めたあらゆる世代が感染によるリスクを有しているという意識を、都民一人ひとりがより一層強く持つよう、改めて啓発する必要がある。</p>
	①-3	(1) 新規陽性者数に占める 65歳以上の高齢者は、前週（9月13日から9月19日まで（以下「前週」という。）の 5,019人から、今週は 3,597人に減少し、その割合は 8.3%となった。 (2) 65歳以上の新規陽性者数の 7日間平均は、前回の約 598人/日から 9月28日時点で約 494人/日に減少した。
	①-4	
		<p>【コメント】</p> <p>新規陽性者数に占める 65歳以上の高齢者数とその割合は減少傾向にあるものの、高齢者は、重症化リスクが高く、入院期間も長期化することが多いため、家庭内及び施設等での徹底した感染防止対策が重要である。</p>
	①-5	<p>第6波以降、新規陽性者数の 7日間平均が最も少なかった 6月14日から 9月18日までに、都に報告があった新規の集団発生事例は、福祉施設（高齢者施設・保育所等）1,820件、学校・教育施設（幼稚園・学校等）84件、医療機関 213件であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>今週も複数の高齢者施設・保育所・幼稚園等で、施設内感染の発生が報告されており、基本的な感染防止対策を継続する必要がある。</p>
①-6	<p>都内の医療機関から所管保健所へ報告された新規陽性者数の分布を人口 10万人当たりで見ると、今週は区部の中心部が高い値となっている。</p>	

モニタリング項目	グラフ	9月30日 第103回モニタリング会議のコメント
② #7119 における発熱等相談件数		#7119 の増加は、感染拡大の予兆の指標の1つとしてモニタリングしてきた。都が令和2年10月30日に発熱相談センターを設置した後は、その相談件数の推移と合わせて相談需要の指標として解析している。
	②	<p>(1) #7119 における発熱等相談件数の7日間平均は、前回の85.9件/日から、9月28日時点で78.1件/日となった。また、小児の発熱等相談件数の7日間平均は、9月28日時点で37.7件/日であった。</p> <p>(2) 都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均は、前回の約2,528件/日から、9月28日時点で約2,126件/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>#7119 における発熱等相談件数及び都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均は、減少傾向にあるものの、高い値で推移しており、引き続き今後の動向を注視する必要がある。</p>
③ 検査の陽性率 (PCR・抗原)		<p>PCR検査・抗原検査(以下「PCR検査等」という。)の陽性率は、これまで医療提供体制の指標としていたが、検査キットが無料配付や薬局での購入により入手可能となったことから、感染状況をとらえる指標として、モニタリングすることとした。</p> <p>濃厚接触者で、医師の判断により検査を行わずに、臨床症状で陽性と診断された患者1,078人は、陽性率の計算に含まれていない。</p>
	③	<p>行政検査における7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の27.4%から9月28日時点で24.9%となった。また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の約12,107人/日から、9月28日時点で約11,457人/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 検査の陽性率は9月28日時点で24.9%と、依然として高い値で推移している。この他にも、把握されていない感染者が多数存在していると考えられる。</p> <p>イ) 9月26日以降、陽性者の発生届出対象が変更されたことを踏まえ、都は、抗原定性検査キットの配付対象を、全年代の「濃厚接触者」及び「有症状者」とした。</p> <p>ウ) また、東京都陽性者登録センターの機能を拡充し、対象者を都内在住の医療機関の発生届の対象者(65歳以上の者、妊婦、入院を要する者、コロナの治療薬や酸素投与を要する者)以外で自主検査陽性の方又は医療機関で陽性の診断を受けた方とした。</p>

専門家によるモニタリングコメント・意見【医療提供体制】

モニタリング項目	グラフ	9月30日 第103回モニタリング会議のコメント
	医療提供体制の分析（オミクロン株対応）	<p>オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析は以下のとおりである。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症のために確保を要請した病床の使用率は、9月21日時点の28.5%（2,071人/7,262床）から、9月28日時点で21.9%（1,593人/7,262床）となった。</p> <p>(2) オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、9月21日時点の19.8%（83人/420床）から、9月28日時点で16.7%（70人/420床）となった。</p> <p>(3) 入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合は、9月21日時点の15.0%（323人/2,148人）から、9月28日時点で16.9%（280人/1,654人）となった。</p> <p>(4) 救命救急センター内の重症者用病床使用率は、9月21日時点の74.0%（478人/646床）から、9月28日時点で74.8%（483人/646床）となった。</p> <p>(5) 救急医療の東京ルール適用件数は、111.6件/日となった。</p>
④ 救急医療の東京ルール適用件数	④	<p>東京ルール適用件数の7日間平均は、前回の117.3件/日から9月28日時点で111.6件/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 東京ルール適用件数の7日間平均は、高い値で推移しており、救急医療体制が未だ影響を受けている。</p> <p>イ) 救急搬送においては、搬送先決定までに時間を要しており、救急車が病院へ患者を搬送するまでの時間は改善傾向にあるが、過去の水準と比べると大きく延伸したままとなっている。</p>
⑤ 入院患者数		<p>重症・中等症の入院患者数のモニタリングを一層重点化するため、その時点で病床を占有している入院患者数に加え、酸素投与が必要な患者数（重症患者は含まない）をモニタリングする。</p> <p>なお、国による全数届出の見直しに伴い、令和4年9月27日以降の自宅療養者等の数は、国への療養状況等の調査報告に準じて、直近1週間の新規陽性者数の合計から入院患者数及び宿泊療養者数を差し引いた数による推計値を用いている。</p>
	⑤-1	<p>(1) 9月28日時点の入院患者数は、前回の2,148人から、1,654人に減少した。</p> <p>(2) 9月28日時点で、入院患者のうち酸素投与が必要な患者数は、前回の323人から、280人となり、割合は前回の15.0%から、16.9%となった。</p> <p>(3) 今週新たに入院した患者は、前週の1,068人から769人に減少した。また、入院率は1.8%（769人/今週の</p>

モニタリング項目	グラフ	9月30日 第103回モニタリング会議のコメント
⑤ 入院患者数		<p>新規陽性者 43,084 人) であった。</p> <p>(4) 都は、病床確保レベルをレベル 2 (7,262 床) としており、9 月 28 日時点で稼働病床数は 6,737 床、稼働病床数に対する病床使用率は 24.6%となっている。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 今週新たに入院した患者数及び入院患者数は減少しており、通常医療との両立を可能とするために、病床を柔軟に活用する必要がある。</p> <p>イ) 入院調整本部への調整依頼件数は、9 月 28 日時点で 47 件に減少した。</p>
	⑤-2	<p>9 月 28 日時点で、入院患者の年代別割合は、80 代が最も多く全体の約 31%を占め、次いで 70 代が約 20%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>入院患者数は減少傾向が続いているが、入院患者のうち 60 代以上の高齢者の割合は約 77%と高い値のまま推移しており、今後の動向を注視する必要がある。</p>
	⑤-3	<p>(1) 9 月 28 日時点で、検査陽性者の全療養者のうち、入院患者数は 1,654 人 (前回は 2,148 人)、宿泊療養者数は 1,241 人 (同 1,657 人) であった。</p> <p>(2) 9 月 28 日時点で、自宅療養者等 (入院・療養等調整中を含む) の人数は 40,880 人、全療養者数は 43,775 人であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 9 月 26 日以降、発生届対象外の患者についても、東京都陽性者登録センターに登録することを都民に周知するとともに、「My HER-SYS」による健康観察、食料品やパルスオキシメーターの配送、都の宿泊療養施設等での入所など、療養生活をサポートしていく必要がある。</p> <p>イ) 都は、33 か所、13,195 室 (受入可能数 9,300 室) の宿泊療養施設を確保し、東京都医師会・東京都病院協会の協力を得て運営している。</p>
		<p>東京都は、重症者用病床の利用状況のモニタリングを一層重点化するため、重症患者数 (人工呼吸器又は ECMO を使用している患者数) 及びオミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床に入院する患者数</p>

モニタリング項目	グラフ	9月30日 第103回モニタリング会議のコメント
⑥ 重症患者数		<p>(特定集中治療室管理料又は救命救急入院料を算定する病床の患者数及び人工呼吸器又は ECMO の装着又はハイフローセラピーを実施する患者数の合計) も併せてモニタリングする。</p> <p>人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合の算出方法： 6月14日から9月26日までの15週間に、新たに人工呼吸器又は ECMO を使用した患者数と、6月14日から9月19日までの14週間の新規陽性者数をもとに、その割合を計算(感染してから重症化するまでの期間を考慮し、新規陽性者数を1週間分減じて計算)している。</p>
	⑥-1	<p>(1) 重症患者数(人工呼吸器又は ECMO を使用している患者数)は、前回の21人から9月28日時点で14人となった。年代別内訳は、30代1人、40代1人、50代3人、60代3人、70代5人、80代1人である。性別は、男性12人、女性2人であった。また、重症患者のうち ECMO を使用している患者はいなかった。</p> <p>(2) 人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合は 0.02%であった。年代別内訳は 40代以下 0.01%、50代 0.02%、60代 0.06%、70代 0.16%、80代以上 0.12%であった。</p> <p>(3) 今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は14人(前週は11人)、人工呼吸器から離脱した患者は12人(同11人)、人工呼吸器使用中に死亡した患者は4人(同3人)であった。</p> <p>(4) 今週報告された死亡者数は53人(10歳未満1人、60代2人、70代7人、80代27人、90代14人、100歳以上2人)であった。9月28日時点で累計の死亡者数は5,810人となった。</p> <p>(5) 今週、人工呼吸器を離脱した患者の、装着から離脱までの日数の中央値は5.0日、平均値は9.1日であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 重症患者数は10人台まで減少したものの、60代以上の高齢者の割合が約64%と高い値となっている。</p> <p>イ) 高齢者のみならず、ワクチン未接種者、肥満、喫煙歴のある人は若年であっても重症化リスクが高まること分かっている。また、感染により、併存する他の疾患が悪化するリスクや治療に影響を与える可能性を有していることを啓発する必要がある。</p>
	⑥-2	<p>(1) オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数は、前回の83人から9月28日時点で70人となった。年代別内訳は10歳未満8人、10代1人、30代3人、40代2人、50代7人、60代9人、70代18人、80代18人、90歳以上4人である。</p> <p>(2) オミクロン株の特性を踏まえた重症患者70人のうち、9月28日時点で人工呼吸器又は ECMO を使用している患者が14人(前回は21人)、ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者が42人(同42人)、その他の患者が14人(同20人)であった。</p>

モニタリング項目	グラフ	9月30日 第103回モニタリング会議のコメント
⑥ 重症患者数		<p>【コメント】 オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数は7週間連続して減少し、病床使用率は10%台で推移している。医療機関の負担が軽減されつつある。</p>
	⑥-3	<p>今週新たに人工呼吸器又はECMOを装着した患者は14人であり、新規重症患者数の7日間平均は、前回の1.4人/日から、9月28日時点で2.0人/日となった。</p>